

【分野名：社会科学】

大 学 名	一橋大学
拠点のプログラム名称	社会科学の統計分析拠点構築
中核となる専攻等名	経済研究所
拠点リーダー氏名	斎藤 修
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>本プロジェクトは、データ・アーカイブ、統計理論、実証分析という3つのコンセプトを結合し、それらが三位一体となった、世界的にもユニークな社会科学における統計分析の研究・教育拠点の構築を目指す。</p> <p>社会科学における実証研究の意義は自然科学における実験に比することができる。この意味における実証研究にとって重要なのが、長期間をカバーする統計の整備と個票データの利用可能性である。本プロジェクトではこの認識の上に、第一に、経済研究所が長年にわたって行ってきた統計書等の収集努力を一步進め、データ・アーカイブとして充実させる。たとえば、マクロ統計に関しては『アジア長期経済統計』（全12巻）の刊行を開始し、現代日本の統計に関しては総務省統計局の協力を得て政府統計ミクロデータの独自集計を継続的に行い、結果を学界に公共財として提供してゆく。</p> <p>第二に統計理論は、データ収集や安全な公表方法に関する理論的検討を行うとともに、データの適切な分析手法を研究するものである。すなわち本プロジェクトにおいて、統計理論はデータと実証分析を繋ぐ役割を果す。</p> <p>第三に、両者の基盤のうえに日本やアジア諸国に関する、マクロ・ミクロ両面における歴史のおよびカレントな課題についての実証研究を実施する。具体的には、国民所得勘定に基づいた歴史的視点からの経済発展の分析および景気循環や産業の生産性などを研究するマクロ分析と、政府統計ミクロデータを中心に家計の消費行動・労働供給行動、あるいは企業の行動を分析するミクロ分析とを両輪とし、いずれも確固たる理論的裏づけの下に行われる高度実証分析を行う。</p>	